



# 麻生多摩美の森だより

58

麻生区市民健康の森 —麻生鳥のさえずり公園—

麻生多摩美の森の会広報紙第 58 号 2020 年 2 月 29 日発行

発行人：会長 井上 正樹 編集者：田中 肇

## 第 18 回植樹祭・収穫祭を振り返って

会長 井上 正樹

11月17（日）は晴天の中、植樹祭・収穫祭を開催することが出来ました。多田区長をはじめ、小学校校長先生や町内会会長の皆様にご出席いただき、総勢 240 名の参加者となりました。

今年は植樹祭の趣向を変えて、「森の中のふしぎ観察」と題し、森の植物や虫などを楽しんでもらう企画にしました。

前半は「ゴンズイ」、「ツリバナ」、「ハナイカダ」の 3 本の苗木を 3 つの班に分かれて、植樹を行いました。自分の手で木を植える初めての経験をしたようです。春の新芽が楽しみです。今後、苗木の手入れが欠かせません。

後半は、「かわさき宙と緑の科学館」の学芸担当（自然）堀内慈恵さんのアドバイスのもと、子供たちは真剣に説明を聞いてくれました。

今回は森の観察を通して自然に触れてもらう趣向です。参加者全員にビンゴカードを配布し、森の木々や生き物など見つけたものに印を付けるビンゴゲームでした。今年も多摩美子ども会のお母さん方を中心に、地域の方が朝から「けんちん汁」「焼き芋」「ゆで里芋」等の準備をしてくださいました。

森の音楽会は多摩美太鼓の会、アルプホ

ルン・カウベルの演奏を楽しみました。演奏後、太鼓やアルプホルンを実際に手に触れ叩いたり、吹いたり、の初体験を楽しんでいました。



3つの班に分かれて植樹開始



植樹の様子（3班）

お天気に恵まれ、多くの皆様に森を知ってもらうことができ、会員一同感謝しております。準備・企画会議から前日・当日の設営までご協力いただきました、多摩美みどりの会、多摩美の山トラストの会、多摩美子ども会、麻生プレーパークを創る会にはこの場を借りて御礼申し上げます。

## 里山フォーラム in 麻生の報告

中谷一郎

2020年2月22日(土)に麻生市民館で開催された。今年も各団体から参加された方々で実行委員会が開かれ全体の構成、楽しいワークショップ等を用意し、約230名の参加となりました。

午前の部は、多田区長のご挨拶、里山山伏先導、子供たちの発表「私たちが地域の自然で学んだこと」\*千代ヶ丘小「万福寺人参」\*岡上小「里山・丸山」\*金程小「くじらの森」\*東柿生小「里山・早野」。自然と関わりを持ち、楽しんで活動を継続している素晴らしいものでした。ワークショップではクロモジ羽根での羽根つき、竹切りの講習。午後の部は、ほら貝の演奏、「第14回ホッとする風景写真展」の表彰式、展示団体によるトークリレー、ハーブティを飲みながらのテーマトーク「持続・つなぐ」を小グループ毎の討論会、最後の人気は地元の農産物(万福寺人参、野菜、ダイコン等)の紹介と全員に当る抽選会でした。



小学生の発表の様子

## ナチュラリスト養成講座に参加

中谷一郎

[新百合丘の自然を歩く 観る]

2019年12月14日(土)小田急線新百合丘駅に集合。児童文学賞受賞作家でもある講師 高柳氏の案内で大規模開発された駅南側、街中に分水嶺の地形と多様な緑が残っている場所、こやのさ緑道・万福寺檜山公園と続き山道を登りそして弘法の松公園(丘高台)へと至る。今は火災で衰退し枯死して無いが高さ30m根回り11mで昔、旅人の道標になっていた事が偲ばれ、晴れた日は四方が見渡せ富士山も見える。この公園を管理されている管理運営協議会の藤田氏から詳しく説明を受け、南百合丘小学校へと下って行った。

学校校庭の外周、南側斜面及び東側斜面に自然観察の場「やすらぎの森」があります。約120種類の植生を基本としながら、生きものが住む環境を作り、各学年によってテーマを決め観察を行っている。高柳氏が豊かな樹木をこどもの探求心が湧く様に工夫をされ今年で創立50周年を迎える記念として学校に120頁にのぼるネイチャカードを理科教材して進呈された。特に5年生は、「目指せ環境マスタ」をテーマにしている。また、やすらぎの森実行委員としても年間を通じ直接関わり、教えておられ素晴らしい試みだと感心しています。森に関わる者として羨ましく思いました。

## 小網代の森を訪れて

井上 正樹

かながわトラストみどり財団主催、みどりの実践団体交流会・研修会に令和元年11月7日参加しました。午前研修会、午後観察会の2部構成となっていました。参加者は横浜（4名）・川崎（4名）・三浦半島地区（36名）・県職員（2名）計46名。

### 1. 研修会

講演：「流域思考で守られた小網代の森」

講師：慶応義塾大学名誉教授

NPO 法人小網代野外活動調整会議

代表理事 岸由二

まず、「小網代の森は70haの広大な敷地に多摩丘陵最南端の台地から長さ3,000mの川を擁し、森と湿原と海の変化に富んだ全国にも珍しい公園である」とのことでした。更に「ゴルフ場に開発されそうになったのを、ゴルフ場反対運動でなく、一般開放し住民の利用を」と又「議会の全政党の賛成を得ることで、貴重な森を残す事が出来た」と誇らしげなお話でした。特にアカテガニは森⇒干潟⇒海と移動し、そこで卵を産み逆に森に帰る生態系が出来ている。豊かな自然のお蔭で単位面積当たりの鳥や水生動物・カニ類が多くホタルは1,000～2,000匹、ハマカンゾウは当初200株、現在は5,000株に、黄色い花の群落がみられるとのことで、網走の湿原の管理団体も見学に来られたとのことでした。

川は国土交通省の管理であるとのことで、午後からの見学が楽しみでした。

### 2. 観察会

三崎マグロ等の三浦の産直品売り場「うらり」にバスで移動し、「こもればの会」中村会長、柴会員と昼食マグロ料理を共に。

台風の影響（崖崩れ）で立入り禁止箇所より引き返す事に。3班に分かれ我々は最後に出発。台風の影響で倒木が至る所で見られたが、人手不足で放置されていた。それでも本職人がチェーンソーで切断する音が聞こえていた。湿地帯には木製遊歩道が整備され、自然保護に力を入れていた。



途中坂を上って下ると木々の間に湾と森が目の前に見えてきた

先に進むと入り組んだ海が目の前に



この遊歩道の先に立ち入り禁止の柵が。広い湿地帯の先には豊かな森が青空と共に

湿地帯に設置された木製遊歩道



岸代表理事と筆者と記念写真

## 万福寺にんじん栽培2年目

豊田 雅章

昨年の畑は 2.0m×2.0m、深さ 65 cm。今年 は 0.9m×12m で、深さは頑張っ て 110 cm。掘ったまではよかったが、掘り出した粘土質の赤土の代わりに入れる、黒土が足

りない。なので、3分の1は写真のような塹壕状態のまま。



3分の2は埋めたものの、8月10日までかかり、その日に種まきという慌ただしさ。種まきが基準日より1か月遅れたこともあってか、最長でも 52 cm。昨年の 61.5 cm より短く、細身だった。

12月21日の品評会は33の農園や学校、家庭菜園から出品。当会は今年も選外。最優秀賞は 91 cm。先まで太く、表面なめらか、色鮮やかで赤みが濃い。芯は細く、繊維質も少ないので肉質は柔らか。こういうのをつくるため、そして塹壕状態を埋めるため、12月から多摩美の森で土づくりに汗してる。

(畑の管理分科会 幹事)

## 今後の活動予定

副会長 中谷 一郎

2020(令和2年)初めての会報です。本年の活動は主力が70才代から世代交代をして自由な発想で引き継いで頂く時期に来ており、そのバックアップに集中し、足固めに全力で挑みたいと思います。会員の皆様も会員以外の皆様も応援よろしくお願ひします。

また、今までと同様にお子さんと気楽に森にお出かけ下さい。

今後の活動予定は下記の通りです。

- 3/7 (土) 里芋畑の耕作、草刈、清掃
- 3/15 (日) 蔓の除去、草刈、清掃
- 4/4 (土) 樹木の手入、草刈、清掃
- 4/19 (日) 周辺の粗大ごみの収集
- 4/25 (日) 第18回通常総会

麻生区役所会議室4階15時30～

- 5/2 (土) 草刈、樹木の整備、清掃
- 5/10 (日) 多摩美子ども会(予定)
- 5/17 (日) 草刈、里芋畑の草取り
- 6/6 (土) 草刈、畑の整備、清掃
- 6/20 (土) プレーパーク活動(予定)
- 6/21 (日) 野原の草刈、樹木の手入
- 6/21 (日) 多摩美子ども会里芋植付け

(予定)

作業時間は10月から5月までは

10時から12時までです。

<http://web-asao.jp/hp2/tamami/>



←当会ホームページで本紙のバックナンバーもご覧ください。当会 Facebook ページはこちらです。→



<https://www.facebook.com/asaotamaminomorinokai/>

会員募集中(年会費1,000円)

一度見学にお出で下さい。里山の楽しさを親子で味わって下さい。

皆さんの投稿、感想をお寄せ下さい。

お問い合わせ・連絡先: 井上 正樹

090-6019-3788 famcv643@ybb.ne.jp